

**会員事業所景況実態調査令和4年10月～令和4年12月分集計結果**  
**調査依頼数:567 回答数 68 回答割合:11.9%**

令和4年度3回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。  
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。  
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

**★DI値とは**

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。  
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

**【質問 A】 前年同時期と比較した10月～12月の景況**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	13	26	29	68	▲ 23.5	▲ 21.7	▲1.8
	採算	9	28	31	68	▲ 32.4	▲ 28.9	▲3.4
	仕入単価	0	13	55	68	▲ 80.9	▲ 80.2	▲0.6
	従業員	20	45	1	66	28.8	28.4	0.4
	業況	4	41	23	68	▲ 27.9	▲ 32.9	5.0
	資金繰り	4	49	14	67	▲ 14.9	▲ 15.7	0.7
建設・建築業	売上	1	10	9	20	▲ 40.0	▲ 33.3	▲6.7
	採算	1	9	10	20	▲ 45.0	▲ 38.9	▲6.1
	仕入単価		3	17	20	▲ 85.0	▲ 72.2	▲12.8
	従業員	9	11		20	45.0	58.8	▲13.8
	業況		16	4	20	▲ 20.0	▲ 35.3	15.3
	資金繰り		17	3	20	▲ 15.0	▲ 11.1	▲3.9
製造業	売上	2	3	6	11	▲ 36.4	▲ 42.9	6.5
	採算	1	4	6	11	▲ 45.5	▲ 57.1	11.7
	仕入単価		2	9	11	▲ 81.8	▲ 100.0	18.2
	従業員	2	9		11	18.2	▲ 14.3	32.5
	業況		5	6	11	▲ 54.5	▲ 28.6	▲26.0
	資金繰り	1	7	3	11	▲ 18.2	▲ 28.6	10.4
卸・小売業	売上	2	5	8	15	▲ 40.0	▲ 23.1	▲16.9
	採算	2	6	7	15	▲ 33.3	▲ 38.5	5.1
	仕入単価		2	13	15	▲ 86.7	▲ 76.9	▲9.7
	従業員	1	12	1	14	0.0	23.1	▲23.1
	業況	1	7	7	15	▲ 40.0	▲ 46.2	6.2
	資金繰り	1	9	5	15	▲ 26.7	▲ 38.5	11.8
飲食・サービス業	売上	5	7	4	16	6.3	▲ 10.5	16.8
	採算	4	7	5	16	▲ 6.3	▲ 5.3	▲1.0
	仕入単価		5	11	16	▲ 68.8	▲ 73.7	4.9
	従業員	4	11		15	26.7	21.1	5.6
	業況	2	11	3	16	▲ 6.3	▲ 42.1	35.9
	資金繰り	1	12	2	15	▲ 6.7	▲ 5.3	▲1.4
不動産・その他	売上	3	1	2	6	16.7	▲ 15.4	32.1
	採算	1	2	3	6	▲ 33.3	▲ 26.9	▲6.4
	仕入単価		1	5	6	▲ 83.3	▲ 87.5	4.2
	従業員	4	2		6	66.7	28.0	38.7
	業況	1	2	3	6	▲ 33.3	▲ 19.2	▲14.1
	資金繰り	1	4	1	6	0.0	▲ 11.5	11.5

**(全体)**

全項目において前回よりも対比増減が少なく、ほぼ同じDI値となっている。仕入単価は依然としてDI値▲80ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員では、会員事業所の皆様から従業員の募集をしても応募が来ないとの声を多く聞いており、依然として人手不足感が強い状態が続いている。

**(建設・建築業)**

従業員、業況以外は前回より悪化しており、特に仕入単価は10ポイント以上悪化しDI値も▲80ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。売上、採算でもDI値が▲40ポイント以上とマイナスポイントが高い。一方、業況は10ポイント以上改善しDI値も▲20ポイント台まで回復している。従業員では、人手不足感が多少弱まったが、依然としてDI値が40ポイント以上と人手不足感が強い状態が続いている。

**(製造業)**

従業員、業況以外は前回よりも改善しており、特に資金繰りはDI値▲10ポイント台まで回復している。しかしながら、他の項目では仕入単価をはじめDI値のマイナスポイントが非常に高い状態が続いている。一方、業況では20ポイント以上悪化しDI値も▲50ポイント以上と大幅に悪化している。また、従業員では、30ポイント以上悪化し人手不足感に転じている。

**(卸・小売業)**

売上、仕入単価以外では前回よりも改善しており、特に従業員では20ポイント以上改善し、人手不足感がなくなるまで回復している。一方、売上では、10ポイント以上悪化しDI値も▲40ポイント以上と大幅に悪化している。また、仕入単価では、依然としてDI値が▲80ポイント以上とさらに悪化している。

**(飲食・サービス業)**

採算、従業員、資金繰り以外は前回より改善しており、特に売上では、10ポイント以上改善しDI値もプラスに転じている。また、業況では、30ポイント以上改善しDI値もマイナスポイントが一桁台まで回復している。しかしながら、仕入単価は依然としてDI値▲70ポイント近くとマイナスポイントが高い状態が続いている。

**(不動産・その他)**

採算、従業員、業況以外は前回より改善しており、特に売上では、30ポイント以上改善しDI値もプラスに転じている。また資金繰りでは、DI値がプラスマイナス0まで回復している。しかしながら、仕入単価は依然としてDI値は▲80ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。一方、従業員では30ポイント以上悪化し、人手不足感が大幅に強まっている。

**【質問 A】 12月と比較した1月～3月の先行き見通しについて**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	14	25	27	66	▲ 19.7	▲16.9	▲2.8
	採算	7	28	32	67	▲ 37.3	▲27.7	▲9.6
	仕入単価	0	13	54	67	▲ 80.6	▲82.7	2.1
	従業員	24	39	3	66	31.8	32.1	▲0.3
	業況	5	34	28	67	▲ 34.3	▲28.0	▲6.3
	資金繰り	3	48	15	66	▲ 18.2	▲20.5	2.3
建設・建築業	売上	2	8	10	20	▲ 40.0	▲27.8	▲12.2
	採算	1	7	12	20	▲ 55.0	▲33.3	▲21.7
	仕入単価		2	18	20	▲ 90.0	▲77.8	▲12.2
	従業員	10	10		20	50.0	64.7	▲14.7
	業況		15	5	20	▲ 25.0	▲23.5	▲1.5
	資金繰り		16	4	20	▲ 20.0	0.0	▲20.0
製造業	売上	3	3	5	11	▲ 18.2	▲14.3	▲3.9
	採算		5	6	11	▲ 54.5	▲28.6	▲26.0
	仕入単価		4	7	11	▲ 63.6	▲85.7	22.1
	従業員	3	6	2	11	9.1	▲14.3	23.4
	業況		4	7	11	▲ 63.6	▲14.3	▲49.4
	資金繰り		8	3	11	▲ 27.3	▲42.9	15.6
卸・小売業	売上	3	6	4	13	▲ 7.7	0.0	▲7.7
	採算	2	6	6	14	▲ 28.6	▲23.1	▲5.5
	仕入単価		1	13	14	▲ 92.9	▲100.0	7.1
	従業員	2	11	1	14	7.1	30.8	▲23.6
	業況	1	6	7	14	▲ 42.9	▲23.1	▲19.8
	資金繰り	1	8	5	14	▲ 28.6	▲38.5	9.9
飲食・サービス業	売上	4	6	6	16	▲ 12.5	▲21.1	8.6
	採算	4	7	5	16	▲ 6.3	▲15.8	9.5
	仕入単価		5	11	16	▲ 68.8	▲63.2	▲5.6
	従業員	5	10		15	33.3	31.6	1.8
	業況	3	7	6	16	▲ 18.8	▲36.8	18.1
	資金繰り	1	12	2	15	▲ 6.7	▲15.8	9.1
不動産・その他	売上	2	2	2	6	0.0	▲15.4	15.4
	採算		3	3	6	▲ 50.0	▲34.6	▲15.4
	仕入単価		1	5	6	▲ 83.3	▲91.7	8.3
	従業員	4	2		6	66.7	24.0	42.7
	業況	1	2	3	6	▲ 33.3	▲30.8	▲2.6
	資金繰り	1	4	1	6	0.0	▲23.1	23.1

**(全体)**

採算以外は前回との対比増減が少なく、ほぼ同じDI値となっている。仕入単価は依然としてDI値▲80ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。一方、採算では、10ポイント近く悪化しDI値も▲40ポイント近くまで悪化する見通しとなる。

**(建設・建築業)**

従業員以外では、悪化する見通しとなっており、業況以外は10ポイント以上悪化し、業況、資金繰り以外のDI値はマイナスポイントが非常に高くなる見通しとなる。一方、従業員では人手不足感若干改善するが、依然として人手不足感が非常に強い状態が続く見通しとなる。

**(製造業)**

仕入単価、資金繰り以外は悪化する見通しとなっており、特に業況では50ポイント近く、採算では20ポイント以上と大幅に悪化し、DI値も業況が▲60ポイント以上、採算が▲50ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなる見通しとなる。一方、仕入単価は大幅に改善するが、DI値は依然として▲60ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。

**(卸・小売業)**

売上、採算、業況以外は前回より改善する見通しとなり、特に従業員では20ポイント以上改善し人手不足感が大幅に弱まる見通しとなる。しかしながら、仕入単価は依然としてDI値はマイナスポイントが非常に高い見通しとなる。一方、業況では、20ポイント近く悪化し、DI値も▲40ポイント以上と大幅にマイナスポイントが高い見通しとなる。

**(飲食・サービス業)**

仕入単価、従業員以外は前回より改善する見通しとなり、特に業況では20ポイント近く改善する見通しとなる。一方、仕入単価、従業員では前回より悪化しているがほぼ前回同様の見通しとなり、依然として仕入単価のDI値はマイナスポイントが非常に高く、人手不足感も非常に強まる見通しとなる。

**(不動産・その他)**

採算、従業員、業況以外は前回より改善する見通しとなり、特に売上と資金繰りではDI値がプラスマイナス0まで回復する見通しとなる。しかしながら、仕入単価は依然としてDI値が▲80ポイント以上と高い見通しとなる。一方、採算は10ポイント以上、従業員は40ポイント以上悪化しDI値は採算では▲50ポイント以上まで悪化し、従業員も人手不足感が非常に強まる見通しとなる。

